令和３年度第１回 滋賀県観光事業審議会　議事概要

１　開催日時、場所

令和３年８月６日（金）　10:00～12:15

大津合同庁舎７－Ａ会議室

２　出席委員（敬称略、五十音順）

〇委員：伊吹　惠鐘、上田　未來、　金子　博美、　川口　洋美、近藤　直人、
佐藤　泉、　野村　ゆき子、羽田　真樹子、林　　優里、人見　能暢、
廣岡　裕一、松田　大祐、　道又　隆弘、　宮川　富子、吉田　満梨

〇オブザーバー：
江川　寛、　西川　直治、　森田　正志

３　議事等

■ 山添観光振興局長挨拶

■ 定足数の確認

■ 新任委員の紹介

■ 議題（１）会長および副会長の選出について

〇 会長に廣岡委員を、副会長に吉田委員を選出。

■ 議題（２）令和２年度「『健康しが』ツーリズムビジョン 2022 アクションプラン」の評価について

〇 事務局より、資料３、資料３（別添１）、資料３（別添２）について説明。

（会長）

〇意見や質問がある方はお願いしたい。

（委員）

〇スライド 15 で、ビワイチの達成率が 53%と宿泊者数や観光消費額などの達成率より低い。一般的には新型コロナウイルスの影響で、密を避けられる自転車の利用が活性化

していると思うが、達成率が低いのは目標値が高かったからか。このあたりの評価を教えてほしい。

（事務局）

〇達成率自体は他より低かったが、延観光入込客数が約３割減に対して、ビワイチは約２割減で留まった。一定程度、密を避けられるビワイチが選ばれたものと認識している。

（委員）

〇スライド 15 の外国人宿泊客数は、訪日だけではなく日本在住の外国人も含まれるか。

（事務局）

〇含まれている。

（会長）

〇確認だが、外国人の見分け方はどうしているか。宿泊者名簿から確認しているのか。

（事務局）

〇外国人宿泊客数は、原則的に宿泊名簿により訪日外国人をカウントしている。

（委員）

〇黒壁の観光客数も、資料内の推移と概ね比例している。昨年の緊急事態宣言では街中から人が消えることを体感した。その後、「今こそ滋賀を旅しよう！」で効果を多く感じた。観光客数の推移は、滋賀県平均と長浜の傾向が一致している。

今年に入って観光客数は少しずつ回復し、６月は来場者数が昨年比 100％を超えている。ただし、一昨年比 40％ではあるが。また、７月は来場者数が昨年比 110％を超え、一昨年比で 70％となった。しかし、８月からまん延防止等重点措置となり、秋以降期待していた教育旅行のキャンセルが出始めている。県も教育旅行の取組をされている。長浜も、街並みを散策してもらうため、京都や奈良に行けなくなった学校より問い合わせがたくさんあったが、９月 10 月以降厳しくなるかなという印象で、８月に期待を寄せていただけに、楽観視していける状況ではないと思っている。更なる支援、協力をいただければと思う。

（委員）

〇宿泊客数や観光消費額の推移が全国に比べ落ち込みが少ないとのことだった。インバウンドによるバブルが消え、今が、真の滋賀県観光の実力かと思う。全国に比べて落ち込みが少ないはどういう理由か。データは難しいかもしれないが、感覚ででもなにか教えてほしい。

（事務局）

〇明確な分析は難しいが、インバウンドの影響が少ないことと、「適度な疎」の環境である滋賀県が選ばれやすい状況であったことだと思う。滋賀県周辺の自治体に緊急事態宣言等が出た際でも、そういうことが影響して、落ち込みが少なかった。明確な根拠は示せないが、数値を見る限り、滋賀県の良さが注目されたと一定言えるのではないかと思う。

大変厳しい状況であるが、一定選ばれる地域になったと思う。

（委員）

〇今の件で補足したい。他の地域から選ばれたということもあろうが、滋賀県の周りの名古屋や大阪は緊急事態宣言が出ており、それらのエリアの普段のお客さんはなかなか来ていただけない状況であった。ゆえに、本来なら、全国同様の落ち込みとなったはずであるが、「今こそ滋賀を旅しよう！」で県民がお得に泊まれるプランを作っていただき、今まで滋賀県内で宿泊したことのない県民が宿泊した分が、プラスになっていると思う。

（事務局）

〇「今こそ滋賀を旅しよう！」について、先週感染ステージが上がったため現在はコンビニ券の発売を中止しているが、この７～８月で５万枚近くの販売が出来た。県民が安全安心に県内を宿泊することについては、一定の制限下とはなるが、引き続き応援していきたいと思っている。旅行需要を創出しながら、観光事業者への支援を引き続き行っていきたいと考えている。

（委員）

〇「今こそ滋賀を旅しよう！」が、コロナ禍の影響で第 3 弾以降は県民誘客という施策となったが、そこから、新しいマーケットが見えてきた。これまではインバウンド、大都市圏、近隣県からのお客様をターゲットとし、マーケティングを行っていた。県民向け第 3 弾以降（2021 年 4 月～）「今こそ滋賀を旅しよう！」を契機に地元(県内)にもマーケットが存在する気づきがあり、ツーリズムのポートフォリオの見直しが必要と考える。「域

内生活者向けツーリズム」という観点もポートフォリオに加え、ターゲティングを行い、今回得たレガシーを活用することも必要と考える。

（事務局）

○「今こそ滋賀を旅しよう！」は、地域の良さを今一度再発見、再評価して楽しんでいただくことに功を奏したと思う。県民向け施策は全国で行っているが、その中でも滋賀県の落ち込みが少なかったというところは、「適度な疎」の滋賀県の、癒しの空間と時間にコロナ禍で傷んだ身体を癒されに来たのだと思う。

■議題（３）次期ビジョンの論点整理について（滋賀県観光の“目指す姿”について）

○ 事務局より、資料４、資料５について説明。

（会長）

○今、資料４ならびに資料５について説明頂いた。ここまでのところでご質問・ご意見等があればいただきたい。

（委員）

○シガリズムのガイドブックが大変良いと思って拝見していた。

９年間の計画であることも大変意味があると考えている。中身はとても良く、滋賀の色々な魅力がうまく繋がれている枠組みだと思う。しかし、これまでもおそらく滋賀の観光の課題だったと思うが、アクセスシビリティの問題がある。どれもすごく行ってみたい観光地を挙げているが、ほとんどが車で行くことを前提としている。しかし、目指すべき姿の「CO2 削減」とか「環境保全」は車で来る方だけをターゲットにすればいいかというと、そうではないと思う。当初３年間の計画として、車で来る方を増やすのではなく、ビワイチも含めた自転車のツーリズムの増加や、団体旅行にバスで来る方を増やす方向性に力を入れていると思う。その後の成長期以降で、都市圏の方をターゲットに含めた取組としていくとなると、その人たちのアクセス確保をどう具体化していくのか考えながら聞いていた。４つの柱として書かれているところだが、「受け入れ環境の整備魅力発信」のところで、どういう提案をしていくのかがセットにならないといけないだろうと考えている。例えば、ＪＲを含めた公共交通機関とどう連動するか、あるいは滞在型観光を打ち出しているので、その事業者からなんらかの交通手段を提供することが考えられるか、あるいは電気自動車みたいな小型モビリティ導入するのか、等含めて、具体的

な提案があれば地域の魅力が大変多くの方に伝わるかと思う。どういうふうに実際に来ていただくのかということについて、もし現状で考えがあれば伺いたい。そうでなければコメントという形で伺いたい。

（会長）

〇特にアクセスシビリティの点について、事務局からコメントをお願いする。

（事務局）

〇県内各地、どのように交通手段を確保していくかは永遠の課題であり、取り組まないといけない点と考えている。

実はＪＲとその点について密に相談等もしており、まさにこの３年であれば、ＪＲの各駅からサイクリング、ツーリズムをどう展開できるか話をしている。コロナ禍でも既存のものを磨いていくことで、重点戦略をあげさせていただいている。その先、成長期、成熟期に自転車以外のモビリティではもちろん上がると思うが、大きなアウトフレームの中で考えていくことに合意が出来れば、より具体の施策論の議論をさせていただいて、アクションプラン等に具体的な施策をどんどん書いていこうと、期待していこうと考えている。そのあたり皆様のお知恵を借りながら、ご意見を賜りながら施策計画を構築していきたいと考えている。

（委員）

〇私もシガリズムの考え方、方向性は非常に共感、理解できる部分が大きい。また、滋賀観光の根本的な問題である、アクセスが非常にしにくい部分がプラスになると思う。あと、観光の重要な、人との繋がり、住んでいる方や県民とのつながりを通じて滋賀の良さを発見してもらうところでいうと、どこまで滋賀に来られた方が、人を通じてそこを実感できるのか。私の経験から言うと、滋賀県外から見るよりも、期待が高かったせいかもしれないが、意外と滋賀の方が自県の良さ、地域の良さとを知らないと思う。特に食に関して、滋賀が誇る食べ物も沢山あるのに、あまり日常に取り入れていないところも大きいと思う。県民割事業など、滋賀の方が自分と住んでいるところとは違う滋賀の地域を旅する機会が増えることはそれのきっかけ作りのひとつになるのかな、と思って期待はしている。

それとこの目指す姿だが、最後の重点戦略で一緒にされているが、①はコロナ感染症からの着実な回復という、非常に広いちょっと漠然としたターゲットだが、②はビワイチというかなり狭い特定の事業を挙げておられる。バランス的にどうかと思うのと、ビ

ワイチであるなら、先ほどのＥＢＰＭじゃないが、これまでのビワイチでどういう方が体験を通して参加されているのか、県民の方も先ほどの数値には入っているのか、県外の方の宿泊がどれぐらいかとか、どういうふうなビワイチを通して滋賀、観光を楽しんできたか、ちょっとわかりにくい。波及効果がどこまであって、更に今後どう広げていくのか、もう少し処理していただきたいと思う。また、ビワイチは体力的にする方が限られていると思うので、ビワイチだけじゃなくて自転車で楽しむというところを広げると、エリア毎で、無理なく自転車で地域をめぐる、観光を楽しむというふうな、色々な提案も広げていけるかと思う。

（事務局）

〇二次アクセスを含め、観光地から観光地への移動は大変難しい問題となっている。滋賀の弱みであるが、ＪＲ西日本、近江鉄道など公共交通を生かしながら、サイクルツーリズムで、自転車で移動できるところは自転車に誘導しながらも、タクシーや路線バスもあり、トータル的にまた決めていきたい。今のところそこまで練り切れておらず、今後の大きな課題として思っている。

それから、「今こそ滋賀を旅しよう！」の関係で、今回県民の皆様に滋賀観光の良さ、観光コンテンツの豊富さを改めて感じていただきたいと思っている。そういう対策事業がしばらく続くので、これを機会にしっかりと県民の皆様にも滋賀の良さを知ってもらい、広めていきたいと思う。県民と観光客の交流だが、観光の現場の皆さんにそれぞれの文化的・歴史的な資源・自然環境の良さを知ってもらった上で、観光客が来ても交流の機会がないと、なかなか交流はできない。様々な体験メニューの中にそういった県民の皆様の地域活動、例えば琵琶湖の清掃活動、そういうプログラムを色々と盛り込んでいけたらと思う。食であれば、地域の食文化に触れ一緒に体験する、そういうメニュー作りもしていけたらと思う。

それから、目指す姿の最後の重点戦略についてである。①は、コロナからの回復というところでトータル的なことを言っているのに、なぜ②でビワイチが突然出てきたというところであるが、実は、今年度県議会の議員提案の中でビワイチ条例の制定を目指されているためである。ビワイチの自転車というツールは、健康にもよい。また、観光地にも寄りながらゆっくり地域を周っていただくことに視点を当てていきたいと思っている。もともとビワイチは、ぐるっと琵琶湖一周を目指しているが、今はビワイチプラスという地域観光地めぐり用のコースを作っている。今 11 のコースを設定しているが、まだまだハードルが高いということで、もっときめ細やかな市町村や地域の方のおすすめのコースを作ってもらい、その中で体験を入れてもらうなど、本当にゆっくり地域の中を味

わっていただけるようなサイクルツーリズムを目指したいと思っている。ビワイチ条例の制定に併せ、そういうところを加速していきたいと思っている。

ゆえに、シガリズムと言っているが、新しいツーリズムの中のひとつの体験方法に自転車があるという位置づけであり、特にこの３か年、条例に併せて力を入れていきたいという思いであげている。

（会長）

〇本議案に関しては、論点に従ってお話しいただき、「２」の目指す姿の実現についても言及されているので、枠にとらわれることなく質問・意見をお願いしたい。

（委員）

〇観光の質の向上の定義がわからない。今の過渡的な措置でキャンペーンをいろいろされているが、キャンペーンの客と、それから次に目指していくときの客とは、本当に一致するのか。そこが一致するためのキャンペーンならいいと思うが、そうではないと思う。今はこんな時期なので一致しないことは当然あってしかるべきだと思うが、私の理解では、「質の向上を目指している＝高単価高付加価値のものを作っていく」ことと思っている。そこにキャンペーンがどう結びつくのかが今ひとつ見えない。そこについてお聞かせ願いたい。

それから、いろんな商品を作っていて、滋賀らしさがあるのはいいなと思うが、例えばひとつブームになると様々なところで同じようなアクティビティが提供される。それが本当に質の向上といえるかどうか。私のイメージでは、結局そういうものは日本全国どこでも田舎であればきっとやるだろうと思う。そうすると、滋賀ならではというのはいったい何なのか、ちょっとわからないと思う。

また、このコロナ禍で、観光業界は本当にフラジャイルな土壌の上に立っているといやというほど実感したし、これから先、南海トラフがもうくるだろうと言われていて、あまり楽観的には考えられないと思っている。私は湖西在住で、ほぼ断層上に家があるのでどういう状況になるのか調べたが、かなりの割合で被害が及ぶだろうと予想されていた。そういうことを考えると、成熟期まで何事もなく到達したらいいが、そのこともリスク要因としてはかなり大きく響いてくるかと思う。あまり楽観的な計画ばかり考えず、地震だけでなく、温暖化の影響で巨大台風も来るとか、色々あると思うので、そのあたりも見据えて、良いプランとちょっと悲観的なプランがあってもいいかと思う。私はかなり現実的にそれらを考え、自分の事業計画を立てなければいけないといつも思っている。

（事務局）

○１つめ、「今こそ滋賀を旅しよう！」のキャンペーン内容が高付加価値等の設定に繋がっていないのではないか、ということについて。「今こそしがを旅しよう！」は、とにかく宿泊をしてもらい、観光関連産業の方々に関連するところで支出してもらう、消費してもらう効果を期待しており、質の向上とは繋げていない点、指摘のとおりである。

「今こそ滋賀を旅しよう！」の効果として、滋賀県内を旅することで、美味しいものを食べ、こんないいところがあったのかと感じてもらい、観光の取組に対する意識への理解に役立っているのではないかと思う。

２つめ、アクティビティの関係について。全国でよく似た事例になるのではないかということで、「滋賀ならでは」を出していくのはなかなか難しいが、滋賀県には日本一の琵琶湖がある。琵琶湖にまつわるアクティビティの自然体験等もあり、山、川、農村等、あらゆるものも揃っているかと思う。食べ物でも滋賀県固有のものがあり、自然体験でも、滋賀県でしかできないものに特化しながら、色々と価値を見出してもらうようなものをつなぐ観光プログラムができるよう連携していきたいと思う。「滋賀ならでは」は、県だけでできるものではないので、連携の中で、新しいものを目指していきたいと思っている。

３つめ、大変重要な、リスク要因等を踏まえた計画を考えるべきとの意見。そこまで想定できていなかったが、自然災害、いつどこで集中豪雨がくるかなど、色々なことが考えられる。やはり、防災的な連携のメニューがあってもいいと思うし、教育旅行は特にそういったところを意識したいと思っている。そういう面も観光の中に含めながら、広く体験交流の中にも取り組んでいきたい。

（委員）

○目指す姿の中に、観光従事者の増加をお願いしたい。宿泊業に限るのかもしれないが、人手不足がとても深刻な悩みのひとつ。たまたまコロナ禍で休業・休館しているため、今足りないということはないが、平常に戻った場合には常に人手不足に悩んでいる。宿に限らず、ビワイチ、食など、体験してもらうためには、そういう職業の方々の、日頃の住民に対してのビジネスというより、プラスして、他から来た方に対してのビジネスという意識も働かせてもらっての仕事になると思う。そういう方の育成も掲げてやっていかないと、なかなか受け入れ態勢が万全にはならないと思う。

あと、統計にもあったように、観光地でも、コロナ禍でかなり入込数のマイナスが激しいところと、コロナ禍でもそんなに変わらないところがある。となると、平常に戻ったら、また特定のところに集中しうる。集中したところの渋滞、混雑がかなり見受けられ

る。せっかくシガリズムで推しても、結局渋滞しているよとか、混んでいて行かない方がいい、みたいな噂が広まることにより、体験されたことのがっかり感みたいなものが広がらないためにも、渋滞緩和に関するようなこと、交通施策も一緒に作っていかないといけないと思う。

また、少し細かい話になるが、シガリズムにはどれも体験してみたいものがぎっしり詰まっている。しかし、ビワイチにしても、来られてどうぞ体験してくださいね、と言うだけなく、それができる例えばガイド付きのツアーなど、初めて来られても、ここに申し込んだら連れて行ってくれる。そういうのが細かくたくさんあると、安心できる。自分で調べていきたい人ももちろん多いが、いろいろ教えて貰いながら行きたい方も多いので、最後まで手を差し伸べるような旅も作っていかないといけないと思う。

（事務局）

〇戦略の柱の推進体制の評価の中で、やはり人は大事だろうと人材育成に取り組んでいる。人材育成は、人手不足も含めて考えないといけない観点と考えているので、取組強化は必要と認識している。また、交通の連携も重要と考え、連携していきたいと考えている。ツアーなどに参加できやすい態勢、多様な主体との連携など。特に観光事業者との連携については、ビューロー会員の話を聞いて、連携への思いも掴んできている。それらを繋ぎ合わせれば、滋賀県に行けばツアーを申し込める、という仕組みづくりが見えてくると思う。民間の皆様の力が非常に大事だと思うので、そこを繋げていきたい。

（委員）

〇いつも観光で思うのは、大津に県庁があるためか、滋賀県の考え方がどうしても南高北低。先日、彦根や湖北、長浜等のホテル業界の会合があった。彦根は、彦根城とその周辺を世界遺産にする取組をしている。観光的に言うと、彦根城が世界遺産になれば、必ず世界中から彦根周辺の今までほとんど知られていない場所も必ず注目される。決して観光目的だけではなく、住んでいる人が暮らしやすい、誇りを持てるまちづくりが世界遺産では大事である。併せて大事なのは交通インフラ。滋賀県は、空港は近いです、新幹線止まります、高速道路は走っています、と、外からの交通アクセスが大変良いが、滋賀県の中に入ると、車がないと暮らせない。びわ湖放送で、ローカル路線バスの旅をしているが、ほとんど滋賀県は途切れてしまう。今日は甲賀市からもお見えになっているが、大津から水口に行くとなると２時間ぐらいかかる。なぜかというと、東海道線、草津線、近江鉄道の連携が悪い。各駅でしばらく電車を待たないといけないので、すごく時間がかかる。交通インフラはそういうことを踏まえ、成熟期に滋賀県は観光としてどういうとこ

ろを目指すのか、暮らしている人も含めて、暮らしやすい、来てもらいやすいところにするためには、どういう姿になっていないといけないか考えないといけないと思う。成熟期に向かって頑張りましょう、だけではちょっと難しいかと思う。

それと、ビワイチについて。高齢化の社会において、ビワイチを自転車で頑張って走る人が沢山出てくるのか。私は今、膝が痛くてすごく不安。やはり、ビワイチの中身をもっと色々と作っていかないといけないと思う。スポーツ用自転車で走っている人とはよく出会うが、ママチャリは湖北の方ではあまりない。レンタサイクルで街の中を走るということはあるが、ビワイチとしてどう位置付けて自転車で走ってもらうかについては、まだまだ作っていかないといけないと思う。若い人で頑張って走る人は１日で 60 キロ走る、そういうのもありだが、家族でゆったり回ったり、高齢者が電動自転車でゆっくりと回ったり、立ち寄り場所で産業と絡めるなどしてほしいと思う。もっと経済界、産業との関連を付けていただきたい。例えば、長浜だったらちりめんありますよ、彦根だったら仏壇ありますよ、信楽に行ったら焼き物ありますよ、など。湖東地方でも焼き物など、産業との絡みも作り、地域が活性化する計画は必要だと思う。最近、近隣学生の職場体験の申込みが増えた。出かけられないから近いところで産業体験をすることが増えてきており、産業とのコラボレーションを考えるのもひとつかなと思う。それと、滋賀県はお寺がすごく多いのに、観光に全く出てこない。なぜかというと、京都や奈良に有名なお寺が多い。湖北の観音信仰となど、埋もれているツールがいっぱいある気がする。地域の方々が沢山抽出し、もっと滋賀の魅力を発信できるはずだと思う。ぜひ、彦根城が世界遺産になれるように皆様のご協力をお願いして、終わりとさせていただく。

（事務局）

〇まず彦根城の世界遺産についてだが、県の文化財保護課に世界遺産の推進室ができ、着々と登録準備を進めている。ただ、世間や県民の皆様に十分な広報ができていない。そのあたり、今年度からポスター等を作り、ＨＰ等を立上げ、広報を進めている。ただ、地域の皆様には観光部局にこそ応援して欲しいとお聞きしている。今年度事業に入れ込めるところは入れ込みながら柔軟に対応し、「彦根城を世界遺産に」というキャッチフレーズを少しでもうてるよう、頑張って応援していきたいと思っている。彦根城の素晴らしいところは、天守閣だけでなく周りの武家屋敷と聞いており、そういった本当の良さのポイントをしっかりと伝えていきたい。

交通インフラの件だが、ずっと意見が出ているとおり、本当に滋賀県の弱点なので、交通政策部局と連携しながらやりたいと思う。ビワイチも、ご家族連れの方とか高齢者の方にも楽しんでもらえるようなモデルコースを工夫していきたい。それらの中には、地

場産業、滋賀県にしかない産業もメニューに織り込んでいければと思う。

また、お寺や忍者など、歴史遺産、日本遺産がたくさんあるので、ツーリズムの中にしっかり組み込んで仕上げていきたい。

（委員）

〇交通について聞いていて思ったことがある。私は逆に、滋賀県の交通利便性の悪さが滞在時間を増やすことに繋がり、宿泊をせざるを得ない観光に繋げることができるかと思っていて、あまりマイナスには思っていない。ただ、マイナスと思うのは、例えばアクティビティ施設には 20 代 30 代の若い方がたくさん来るが、皆ネットを活用して来る。交通手段も独自で考えて来るが、地元の人しか知らないローカル路線や裏道が、都市部や全く滋賀県を知らない方にとっては難しい。アクセス方法の告知をウェブや若い方のコミュニティを使って広報していくことで、観光施設、観光スポットへの誘致はまだまだこのままできると思う。

また、資料最終ページの、多様な主体との連携についてだが、私もアクティビティの仕事や林業、スポーツの仕事に従事して思うのだが、各事業者が、自分の仕事が観光事業になり得るという自覚を持ってもらうことが必要かと思う。こっち側から「連携しましょうよ、連携しましょうよ」ということよりも、自分の職業が観光に繋がっている自覚をしてもらうことが、目指す姿、人との繋がりにも繋がっていくと思う。印刷業の人は、自分は観光業じゃないというかもしれないが、観光に関するパンフレットを刷るだけでも観光事業になると思う。また、林業も体験として投げることも観光事業だと思う。あと、スポーツでプロからレクチャーする。レクチャーしてもらうために訪れる人も観光だと思う。

次に、キャンプやアウトドア、サップ、あとビワイチのサイクリングもだが、流行と共に入門者の方がすごく増えたのに、事故が起きることで、できるフィールドがなくなり、事業にならない、せっかくサップの事業をしようとしても、水難事故が起きてしまうと事業にできないという方が多く私の身近にもいる。私も山でそういう仕事をしたい、新しい事業をしたいと思いフィールドを探すが、規制する法律や条例が多い。もちろん自然を守ることも大事だが、自然を生かすために必要な条例ももっと整備してほしい。滋賀県の良さに、絶対、自然がある。そういうフィールドの整備をしてもらえると、どんどん民間も手を挙げてやっていくと思う。先ほどもあったと思うが、来た人が安全にサイクリングするために、アフターケアまですることは、すべてのものに共通していると思う。アウトドアやキャンプなどでも、火災に繋がるようなキャンプをする方もいたりする。行政から安全なアウトドアがどういうことか普及してもらうことで、より安全にで

きると思う。せっかく今自然などに目を向けていただいている。やろうと思っている事業者はたくさんいるが、なかなかやりづらい。そのあたりを支援していただけると嬉しい。

（事務局）

〇アクセスの悪さが滞在時間につながるとのこと。魅力的なコンテンツがあれば何としても来る方はたくさんいるので、魅力的なまちづくりもできればアクセスの問題も一定クリアできると考える。

あと、観光事業でない方が観光になりえることは、非常に重要と考えている。レストランで体験メニューを１つするだけでも観光になり得る。東近江市などでそういった活動をされており、力を入れていくべきだと考えている。

自然の中でマナーの観点でフィールドを考える、そういう啓発などは行政の仕事なので、頑張っていきたいと思う。

（委員）

〇令和２年度のコロナ禍での観光の変化を見て、高島市の観光も、このコロナ禍で、キャンプ、トレッキング、サップのような水のアクティビティが大変増えた。それに伴い、湖西道路が以前よりも混んでいる。滋賀県の観光入込客数などの落ち込みが他より少し低いとの話で、やはり豊かな自然を有するところがベースにあると実感している。滋賀県は大阪や京都の方から「なんもないやん、琵琶湖しかないやん」といつも馬鹿にされるが、滋賀県出身としてはいつも悔しい思い。ただ、コロナ禍のおかげで、日本一の大きな琵琶湖、古代湖という意味でも世界でもすごく稀有な存在であるが、これを有する県はこれから大変強いと感じている。「なんもないやん。なにがあるの？」という方には、観光だけではなく、積極的にこの豊かな自然を楽しみに来てもらえる県にしていけると思う。住んでいる人はもちろん、遊びに来る人も一緒に、豊かな環境は観光だけでなく全てのベースになっているので、その保全に繋がればいいと感じている。スライド６枚目、コロナ禍を経た新たな観光の好循環については、リアルな好循環だと思う。外の方が滋賀の評価をすることで、誇りや地域への愛着が高まる。外の方が来ることにより、環境が守られるようになっていけば、ここに環境の好循環も加えられたらと思う。先ほど清掃活動が観光のひとつになるのではないかとおっしゃったが、大変面白いと思った。交通の話が出ていたが、高島市では日々アクセスの悪さを感じている。国道 161 号線しか南に行ける道がなく、これがストップしたら大変なことになる。今、湖西では国道増設の事業が進んでいる。それは必要な事業だとは思う。しかし、現実的ではないかもしれないが、

琵琶湖を生かした船の交通など昔当たり前にあったことが、未来に今の技術を生かして生まれてほしい。湖西と湖東が船で繋がるとか、湖南と湖北が船で繋がるとか、今は断絶されているが、繋がることができないかなと思う。

産業について。高島で漁業をしている友人がいるが、コロナ禍で本当に苦しいと言っている。食生活は変化しており、漁業はこれまで通りでは難しいかと思う。観光とうまく繋がりながら、漁業や農業の発展もしていくなど、うまくいく方法がないのかと思う。

もう１点。今、高島市と連携し、移住促進事業をしている。大溝という城下町の中に拠点があり、高島に移住を希望して来る方の窓口もしている。これまでは観光案内をしていたが、移住などの案内もしている。先ほどキャンプ客がコロナ禍で非常に増えた話をしたが、同時に移住希望の方も大変増えた。空き家がすぐにあるわけでもなく、家族、子供のタイミングなどもある。いきなり移住するのではなく、幾度もレジャーなどで通い、タイミングを図りながら気に入った場所を探している。そういう方々は、本当に能動的に地域の方と関わる。それは観光でもあり、関係人口でもあると思う。９年間のビジョンを立てられると思うが、９年後は観光ではなく、移住が主かもしれない。観光の定義が大変あいまいになっていると思う。観光が観光じゃなくても良いと思う。最終的には県民になったところを目指しても良いと思う。もう少し他との連携があったらいいと感じる。それがリアルな観光だと思う。

（委員）

〇牧場が立地する山の中は、車でないと来られない不便さのおかげで、このコロナ禍でもバンガロー、キャンプ場など、来客数はコロナ禍前ともあまり変わらない。

最近、山の中に来た解放感からか、バーベキューなどのノリのまま、マスクをしていない方をちらほら見かける。そのため、感染リスクの恐怖からスタッフを守ることが一番の課題。そのため、まん延防止措置で、「マスク着用してないと入場できません　滋賀県」などと記載のポスターなどあれば助かる。スタッフから客に「マスクなしでは入れません」となかなか言えない。やはり日々怖いというのが本音。

あと、「今こそしがを旅しよう！」のクーポン券は、永源寺の山の中でも活用いただいている。

（委員）

〇シガリズムがわかりにくいとのことだが、リズムという以上、ひとつの法則性がある。心地よさがなにかというと、その法則である。また、滋賀の姿であるが、姿である以上、これを写し出す鏡がいる。鏡に照らしながら、自分の姿を確認しながら進んでいく。その

鏡と法則が、近江が誇る「三方よし」だと思う。今はSDGｓなどあるが、滋賀県には太古から「三方よし」という精神がある。これは近江商人が作ったと言われているが、そうではなく、滋賀の人たちの暮らしがそういうものを生み出してきた。太古の昔から、日本遺産―祈りや水や暮らし―などから生まれるリズムをシガリズムというと思う。滋賀らしさとはまさにそういうこと。今年の大河ドラマの主人公は渋沢栄一であるが、氏の著書である「論語と算盤」の原点も「三方よし」に必ずあるはず。今なぜこの大河ドラマを打ち出したか。それは、今の時代社会を背景としてその必然性から大河ドラマに持ってきたのではないか。「「三方よし」を生み出したのはどこか？それは滋賀県である。」ことを誇りとしながら、シガリズムを打ち出せばいいかと思う。それを根本精神にしながら、時代にあわせながらかたちを変えるのが良いやり方だと思う。

それから、マイクロツーリズムにより滋賀県の人に滋賀県内を旅行してもらうことは良いこと。観光客であると同時に、自ら観光客を迎える側になる。そういう視点から、マイクロツーリズムを推し進めるべきである。単なる観光客で終わるのではなく、今度は迎える側になる、それが共に作り出すということだと思う。

最後にビワイチについて。他の委員と同感で、本格派ばかりでなくママチャリ派もなんとかしたい。「東の富士登山、西のビワイチ」と、自転車だけでなく、滋賀県観光の代名詞の１つになるような条例を期待している。

（会長）

〇まだ質問があるかと思うが、時間を過ぎたので、以上とさせていただきたい。最後に、オブザーバーから意見をいただきたい。

（オブザーバー）

〇たくさんの意見を出していただいた。滋賀県に観光客ができるだけ来てもらえるように、全国 5,600 者の会員に発信していきたいと思っている。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げる。

（オブザーバー）

〇びわこビジターズビューローにおいても、今後、回復期の３年間の計画を作っているので、意見をしっかりと伺いたい。観光事業者の方々へもしっかり対応をしていきたいと思う。

（オブザーバー）

〇国としても、コロナの関係で、観光のこの先が見えないというのが本音。滋賀県も明後日からまん延防止措置の適応となるなど、次の手を打とうとしてもなかなか難しい。ワクチンに期待を持っているところ。

この大変な中、皆で力を合わせて頑張りたいと思うので、相談等あれば私にもぜひよろしくお願いしたい。

（会長）

〇最後に一言あれば、お願いする。

（委員）

〇いろいろ意見を聞いて、観光振興に対しての９年間の計画の新ビジョンがよくわかった。

ただ、途中外国人宿泊客数の実績で質問したとおり、日本在住の外国人宿泊数を出してもあまり意味がないと思う。コロナ禍以前は訪日インバウンドのシェアが非常に高かったと思う。今、訪日インバウンドは止まっているが、９年間の計画の中の最初の３年間、回復期の間はインバウンドが恐らく来ない前提で進めるかと思うが、重要なターゲットになるので、訪日インバウンドに対しての計画も明確にしてほしい。

また、目指す姿について、大まかなKPIがあればいいかなと思う。

（会長）

〇まだお話しいただきたいことはあるが、予定時間を過ぎたので、以上とさせていただく。事務局にお返しする。

（事務局）

〇以上で、令和３年度第１回滋賀県観光事業審議会を終了させていただく。

＜閉会＞